



1 学校とは

集団の中で子供の生きる力を育み、夢を実現し得る力を身につけるため、組織的かつ、意図的・計画的に教育活動を行うところである

2 学校経営に関する基本理念

(1) 子供を中心に据える

- ・ 全ての教育活動は、子供の成長のためにある
- ・ 子供のための学校、子供のための教職員

(2) ものごとは心でしか見ることができない 大切なことは目には見えない

サン＝テグジュペリ「プチ・フランス」(内藤 濯(あろう) 訳)

- ・ 教育は信頼関係の上に成り立っている
- ・ 夢、愛情、絆、友情、一緒に過ごした時間、感謝 等

3 校訓 と 学校教育目標・目指す児童像

仲良く (徳) 「ともに高め合う子」

考え (知) 「進んで学ぶ子」

がんばろう (体) 「心身ともに健康な子」

(1) 仲よく (徳)「ともに高め合う子」

- ・ 笑顔があふれる
- ・ 相手の気持ちや立場を考えて行動できる
- ・ ルールやマナーを守る
- ・ 自分や友達、家族、学校、地域を大切にする

(2) 考え (知)「進んで 学ぶ子」

- ・ 確かな学力が身につく
- ・ 話をよく聞く 自らよく考え 進んで学習する
- ・ 自分の考えを発信し、互いに伝え合う
- ・ あいさつや返事ができる

(3) がんばろう (体)「心身ともに健康な子」

- ・ 自分も人も大切にする (命を守る)
- ・ 基本的な生活習慣が身に付く 毎日の「あたりまえ」を当たり前にする
- ・ 自己肯定感 自己有用感が高まる
- ・ 力いっぱい運動する

4 目指す学校像

「笑顔・学力・命を保障する学校」

児童が「通いたい」

保護者が「通わせたい」

教職員が「勤めたい」

地域や関係者が「足を運びたい、協力したい」 と思う学校

5 目指す教職員像

(1) 子供の成長を願う思い、情熱、使命感を持った教職員

- ① 子供にとって最高の教育環境である教師
- ② 職責遂行のために勤務時間及び注意力のすべてを用いる

(2) 社会人として、プロとしての自覚と責任を持った教職員

- ① 児童の安心・安全を提供できる教職員
 - ・ 危機管理意識を高く持つ教職員
 - ・ 危機管理の「さしすせそ」最悪を想定し、慎重に、素早く、誠実に、組織で対応
 - ・ まずは、児童の声をしっかり聴く教職員
- ② 児童・保護者・地域から信頼される教職員
 - ・ 信頼を築くための「誠意（スピード）」と「行動」を自覚・実践する教職員
 - ・ 「わかった」「できた」が実感できる授業を実践する専門性の高い教師
 - ・ 幅広い教養と専門的な知識・技能を備えた教師
 - ・ 人と人とのつながりを大切にする教職員（児童・保護者・地域への丁寧な対応）
- ③ We are ONE TEAM
 - ・ 組織の一人として学校経営への参画意識を持ち、同僚性を高める教職員集団
 - ・ 「報告・連絡・相談（報連相）」と「未届け」を徹底する教職員
 - ・ 明るく風通しの良い職場環境づくりに貢献する教職員（まずは明るい挨拶！）
 - ・ 生活を充実させる「かきくけこ」感謝を忘れず、希望を持ち、工夫し、健康でコミュニケーションをとって
- ④ 教育公務員としての自覚と責任がある教職員
 - ・ 教職員の使命と誇りに関するキャッチフレーズ
 - ・ 「未来を創る、こどもたち。未来を育てる、わたしたち。～未来への責任～」
 - ・ サービスの厳正に努める 不祥事の根絶
 - ・ 教育公務員として職務に専念し、職責の遂行に努める

6 学校経営方針

- (1) 全教職員で魅力ある教育活動を展開する
- (2) 児童一人一人が活躍できる場を設定し、豊かな心の育成を図る
- (3) 学ぶ楽しさ、できる喜びを実感できる授業を実践する
- (4) 元気に登校した児童を、元気に下校させる

7 今年度の指導の重点

(1) 豊かな心の育成（仲よく）

- ① 誰一人取り残さない学校（生徒指導・教育相談の充実）
 - ・ 不登校児童、不登校傾向児童への対応
 - ・ 情報の共有、迅速な対応
 - ・ さやまっ子相談員、スクールカウンセラーとの連携
- ② 児童の笑顔があふれる学級づくり
 - ・ 真面目な生活態度の確立（善い行いを称賛・認める）
 - ・ 児童一人一人の活躍の場を確保し、自己肯定感を育む
 - ・ 児童同士、児童と教師の信頼関係の構築
 - ・ Q-Uアンケート（年2回）の有効活用（学級の実態を客観的に把握・情報を学年内で共有）
- ③ 「特別の教科道徳」の授業の充実
 - ・ 人権意識の向上を図り、いじめ解消率100パーセントを目指す
 - ・ 指導過程を工夫して、考える道徳の推進
- ④ 特別活動の充実
 - ・ 自己有用感を味わわせる学級活動（係・当番活動、学級会）
 - ・ 異年齢集団との関わり（縦割り活動、委員会活動、クラブ活動）
- ⑤ 体験活動の充実
 - ・ 生活科、総合的な学習の時間の充実
 - ・ 地域素材の活用や地域人材との交流
- ⑥ 特別支援教育の充実
 - ・ 特別支援学級との交流の推進
 - ・ 配慮を要する児童への教育支援プランの活用
 - ・ ユニバーサルデザインを意識した授業の構築

(2) 確かな学力を育む教育活動（考え）

- ① 学習規律の徹底・定着
- ② 基礎的・基本的な学習内容を明確にして指導にあたり、基礎基本の定着を図る。
- ③ 主体的・対話的で深い学びの実践（茶レンジ・プラン提言5）
 - ・ 意見を交流させる場と時間の確保
- ④ 児童が学びを実感できる授業の展開（茶レンジ・プラン提言6）
 - ・ 1単位時間の授業の充実（ねらいの明確化、児童が自ら考える時間の確保、まとめを自分の言葉で）
- ⑤ 一人一台のタブレットを活用した授業改善
- ⑥ 専科教員による英語科授業の充実・外国語活動の推進

(3) 安全・健康・体力の育成（がんばろう）「元気いっぱい」

- ① 安全・安心な学校
 - ・ 交通安全指導の徹底
 - ・ 安全点検の確実な実施
 - ・ 不審者対応安全指導の徹底

- ② 健康の基本である体力の向上
 - ・ 体育授業の充実と運動量の確保
 - ・ 早寝早起き朝ごはんの推進
 - ・ 望ましい食習慣の確立

(4) 家庭・地域との連携・協力～開かれた学校づくりの推進～

- ① コミュニティスクールの推進
- ② PTA、お父さんの会との協力体制・学校応援団の積極的な活用
- ③ 様々な家庭環境を理解し、子供の変化や良さ、成長を積極的に伝える
- ④ テーマのある懇談会を実施し、子供の成長の視点を共有する
- ⑤ 学校だより、学年だより、ホームページ、スクリレ等で情報を発信する
- ⑥ 地域への計画的、積極的な参加を図る

8 働き方改革の推進

「教職員が笑顔で子供たちと向き合うために」

【狭山市教育委員会】

「学校における働き方改革基本方針」

○目的

働き方改革を推進し、学校教育の質の維持向上を図る

○目標

時間外在校時間 月45時間以内、年360時間以内の教職員の割合を令和7年度も継続して100%を目指す

(1) ICT環境の有効利用

- ・ 校内サーバを活用した情報の共有化
(授業の資料、行事の資料等)
- ・ ペーパーレス化
- ・ Teams (会議) や Forms (アンケート集計) の活用

(2) 会議や話し合いの効率的な運営

- ・ 事前に資料の提示・話し合う内容の明確化。
- ・ 話し合いの時間の提示

(3) 在校時間を意識した働き方を

- ・ 7時に開錠 19時までに施錠
- ・ 第3水曜日はノー残業デー、毎月21日前後はふれあいデー(18時に施錠)
- ・ 電話受付時間 7:30~18:00(18:00~翌朝7:30まではメッセージ対応)
- ・ 長期休業中は、8時過ぎ開錠 17時施錠

(4) 富士見小リフレッシュ休暇の実施

- ・ 年間1人1日、授業日に年休を取得する
- ・ 年度当初に学年内で重ならない日や行事日程を勘案して計画的に取得する